



・発行・  
京都障害者  
スポーツ  
振興会

# 究極のバリアフリー

## スポーツ 増永 明芳

パラリンピックを見てわかるように、障害者スポーツの種目は多種多様である。しかし、重度障害者が参加できる競技は？と訪ねられると、まだまだ少ないのが現状だ。

その中であって、卓球バレーは重度障害者が参加できる数少ない競技の一つである。しかも、卓球バレーという競技は、障害の種類や程度、有無を問わず、誰もが競技に参加することができただけでなく、対等に競うことのできる究極のバリアフリースポーツでもある。そんな卓球バレーは、進行性筋ジストロフィー

(徐々に筋肉が萎縮していく難病)である私にとって、唯一、スポーツで真剣勝負のできる特別な存在である。

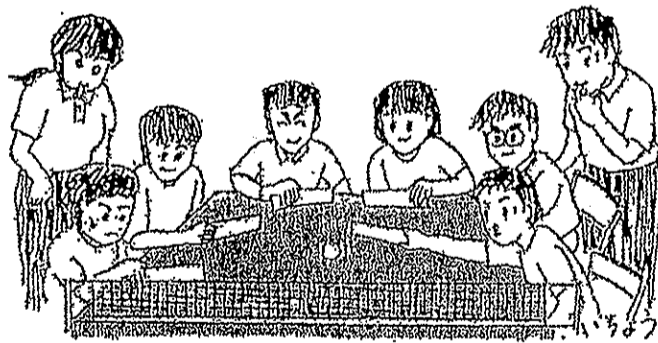
私と卓球バレーとの出会いは、今から十七年前に遡る。私は小学三年生で、確か宇多野病院の筋ジストロフィーで児童を対象とした体験入院に参加したときだったと思う。そのときのことばかり憶えていないが、それから二年後、卓球バレーが発祥地である市立鳴滝養護学校(現総合養護)に転校したことから、私と卓球バレーとの関係は強くなっていった。

当時の鳴滝養護はとにかく卓球バレーが強かった。一九九一年から九八年までの間、全京都障害者総合スポーツ大会・卓球バレー大会の部に於いて、鳴滝Aチームは学校部門で八連覇を記録。その他の大会でも優勝を総なめにしていた。そんな鳴滝の中で、私は九五年から九八年の卒業するまでの間、Aチームの左ブロッカーを務めた。先輩達が築き上げた記録を引き継ぎ、連覇達成に貢献できたことは、今でも誇りに思っている。

現在、私は山科障害者授産所に通所し、年一回ではあるが全京都障害者総合スポーツ大会・卓球バレー大会の部に出場している。鳴滝養護時代に比べ確実に機能は低下しているが、未だに左ブロッカーを務められていることは喜ばしい限りだし、これが卓球バレーの神髄といえるだろう。今年の大会ではチーム一丸となつて、山科授産の悲願である初優勝を狙いたいと思っている。

卓球バレーは障害者スポーツの中で今や京都を代表する人気競技だ。しかしながら、全国的にはあまり知られていない。

初めに述べたように、卓球バレーは究極のバリアフリースポーツである。球技としても魅力のある卓球バレーをパラリンピックの種目へ、とまでは言わないが、京都だけに留まらず全国へ羽ばたいてもらいたい。



### 行事予定

6月	11(日)	401回 障害者スポーツのつどい 第18回京都市障害者体育大会	京都府立体育館 京都市西京極補助競技場
	13(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園
	17(土)	障害者アーチェリー教室	福知山市三和荘
	18(日)	第26回全京都障害者総合スポーツ大会 総合開会式・卓球バレー大会	京都府立体育館

詳しくは、京都障害者スポーツ振興会事務局まで(火曜日及び第3金曜日は定休日)

京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/> (3月30日に一部更新)

来月の  
つどいは

# 7 / 9

第2日曜日

